

平成26年度第1回三重県河川整備計画流域委員会 議事要旨

日時:平成26年12月24日(水)9:30~12:00

場所:三重県庁講堂棟131・132会議室

1. 開会

2. 挨拶

3. 議題

(1)二級河川朝明川水系河川整備計画策定に向けて

朝明川水系河川整備計画原案を提示し、主に次のような意見をいただいた。

- ・工事をする際の水生生物への配慮について、工事担当者へきめ細やかな引き継ぎを行ってほしい。
- ・自然環境は日々変化するので、工事の際は直前の状況の把握に努めてほしい。
- ・津波や内水については、河川管理者が実施しない内容をあまり詳細に記載すべきではなく、現在の表現で良いと思う。
- ・堰の改築で魚道を設置する際は、滞筋などの地域特性を考慮して水生生物の連続性に効果がある位置や魚道の形状を検討したうえで設置してほしい。
- ・河川整備計画の計画規模が1/10であることを住民等に周知し、誤解が生じないよう理解を得なければならない。
- ・朝明川は壬申の乱での主要地域となっており歴史的関係が深い河川であるため、本文にその旨を追記してほしい。また、河床にも埋蔵文化財の存在が想定できるため、河道掘削を行う際は、調査に努めてほしい。
- ・内水はん濫対策について、本文に追記してほしい。
- ・外来種の記述がブラックバス等の魚類のみとなっているため、他の動植物を含めた記載にしてほしい。
- ・堰の改築については手戻り工事が生じないように基本方針規模とすべきである。

(2)二級河川志登茂川水系河川整備計画策定に向けて

志登茂川水系河川整備計画(案)の概要を説明し、主に次のような意見をいただいた。

- ・通常よく見られるような在来種が、生態系全体としては重要な存在であり、文献等に記載された重要種ばかりに注目すべきではない。
- ・川幅全体で河道掘削をする箇所があるため、生物がいなくなる可能性がある。工事の際はこの点を念頭に置いてほしい。
- ・河道掘削実施後に再度土砂が堆積することが想定されるので、まず、江戸橋付近の拡幅改修をして上流への効果を見極めたうえで、この効果を反映し、河口干潟への影響も考慮しつつ、以後の上流の干潟や川底の掘削の必要性や必要量などを再検討しながら、順序立てて進めてほしい。
- ・津波対策として、堤防のかさ上げは効果的なので、この観点を考慮してほしい。

4. 閉会